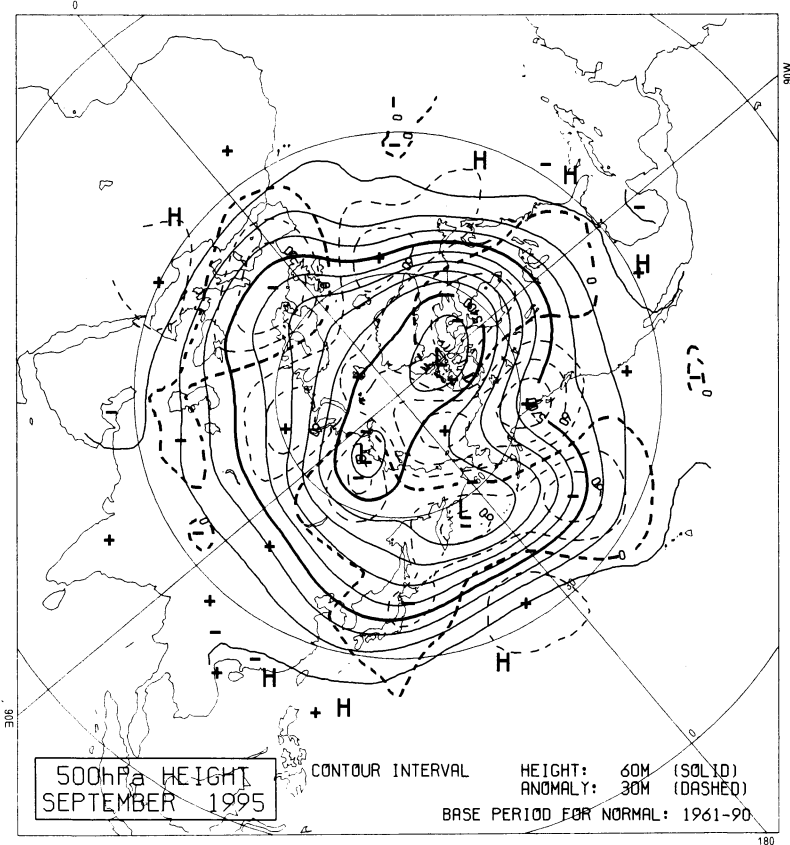


1995年9月の大気大循環と世界の天候 月平均 500 hPa 天気図



(破線は平年からの偏差. 単位m)

表 1 1995年9月の気候表

地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級	地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級
パリ	14.7	-0.6	-0.5	78	146	4	カサブランカ	21.5	-0.5	-0.5	1	21	2
マドリード	18.3	-2.1	-1.0	14	45	3	バマコ	26.2	0.0	0.0	198	103	—
ワルシャワ	13.4	0.1	0.1	138	337	—	ブレトリア	19.7	1.3	1.4	3	14	2
イスタンブール	20.5	0.8	0.9	51	125	4	バンクーバー	—	—	—	—	—	—
モスクワ	12.8	1.9	1.3	48	75	—	セントルイス	20.0	-0.9	-0.6	19	24	1
オデッサ	16.9	0.1	0.1	80	214	5	サンフランシスコ	17.3	-0.5	-0.4	0	0	2
ニューデリー	29.5	0.3	0.3	196	157	4	ニューヨーク	20.3	0.2	0.2	61	71	2
カルカッタ	28.7	-0.3	-0.6	591	200	6	メキシコ	17.1	0.8	1.0	91	57	2
ボンベイ	28.1	0.4	0.8	273	102	3	アスンシオン	22.1	1.3	0.8	60	84	2
ホンコン	27.4	-0.2	-0.4	69	23	1	ブエノスアイレス	15.6	1.2	1.5	39	52	2
チャンチュン	15.2	0.1	0.1	24	46	2	ホノルル	28.4	1.2	2.0	8	40	2
ベキン	19.0	-0.6	-0.7	116	238	5	タヒチ	—	—	—	—	—	—
ジャンハイ	—	—	—	—	—	—	ダーウィン	27.7	-0.2	-0.3	5	26	3
バンコク	28.7	0.3	0.6	343	100	—	キャンベラ	10.6	1.1	1.1	42	76	3
マニラ	26.4	-1.3	-2.2	—	—	—	ショウワキチ	—	—	—	—	—	—

9月の世界の天候

北半球 500 hPa 高度場を見ると、北極海から北米大陸西部にかけて、大西洋、ロシア中部が正偏差域となった。ヨーロッパ西部やベーリング海には負偏差域が広がった。月の後半にはアラスカ付近にブロッキング高気圧が見られた。高・低気圧の活動は、ヨーロッパ南部で平年より強かった。亜熱帯ジェットは、ヨーロッパや太平洋で平年より強かった。

①日本から中国にかけての少雨

日本から朝鮮半島、中国の海岸部では少雨であった地点が多かった。南京では月降水量 1mm (1%) であった。

②中国から日本南部の高湿

インドネシアのジャカルタでは、月平均気温 28.3°C ($+0.8^{\circ}\text{C}$) と高温であった。モンスーンの対流活動が活発で、タイやベトナム、フィリピンでは洪水などの被害が伝えられた。

④ヨーロッパの多雨

北欧など一部を除いて低温・多雨であった。一方、イギリスやスペインの一部では少雨が続き水不足が伝えられた。また、高気圧に覆われることが多かったロ

シア西部は高温・少雨であった。

⑤アフリカの高温

アフリカ北部を中心に高温となった。アルジェリア東部のインアメナスでは月平均気温 32.1°C ($+3.2^{\circ}\text{C}$) であった。アフリカ南部の東海岸では少雨が続き干ばつの被害が伝えられた。

⑥アラスカの高温

ブロッキング高気圧に覆われ、フェアバンクスで月平均気温 11.6°C ($+4.1^{\circ}\text{C}$) となるなどアラスカからアメリカ合衆国西海岸にかけて高温となった。

⑦アメリカ合衆国南部からメキシコにかけての多雨

アメリカ合衆国南部からメキシコにかけては多雨、東部ではハリケーンの影響を受けた大西洋沿いの一部を除いて少雨であった。

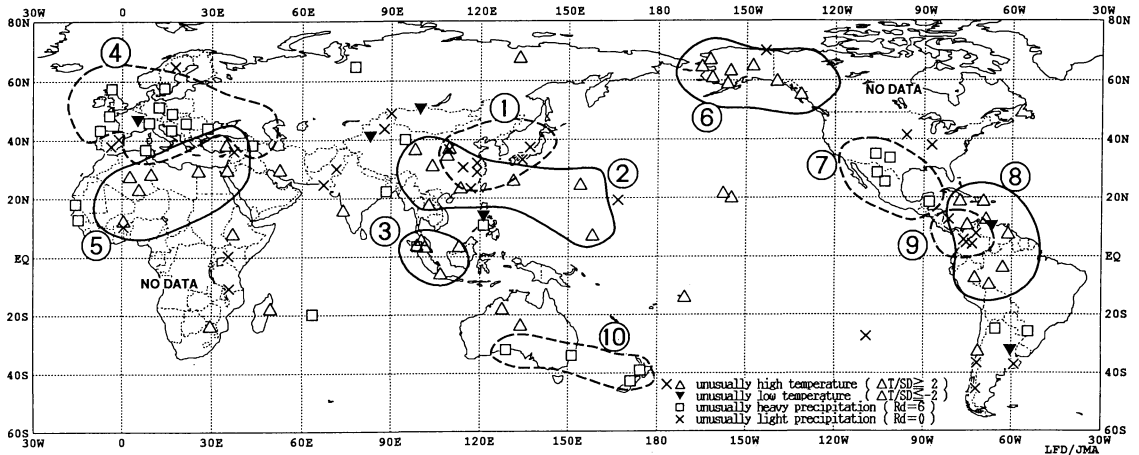
⑧カプリ海から南アメリカ北部の高温

⑨ニカラグアからコロンビアにかけての少雨

⑩オーストラリア南東部からニュージーランドにかけての多雨

オーストラリアのシドニーでは、月降水量 248mm (412%) であった。

(気象庁長期予報課 徳広 貴之)



1995年9月の世界の異常天候分布図

図中の番号は、本文中の番号と対応している。

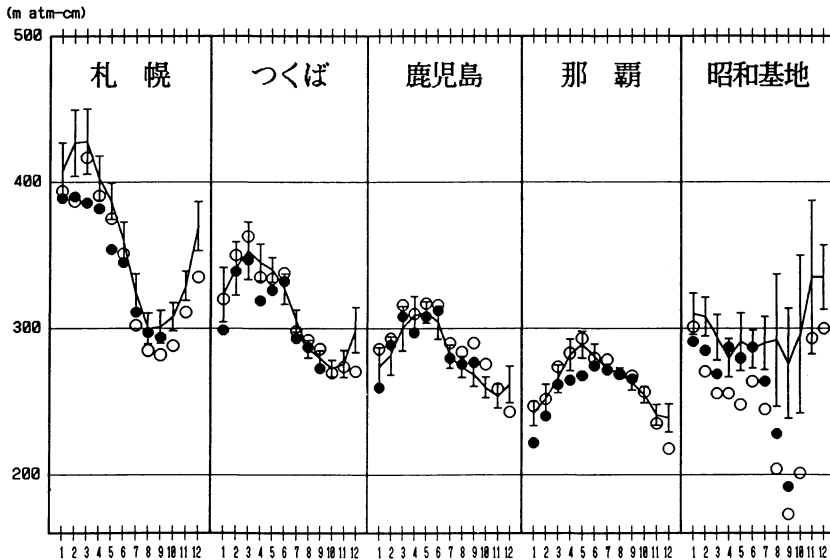
1995年9月の気候表の説明。平均値は、1961～1990年のデータに基づくもの。降水階級は五分位値で、0は最小値より小さい場合、6は最大値より大きい場合。500 hPa 高度場の平均値は1961～1990年の30年平均値。

オゾン層の状況 (1995年 9月)

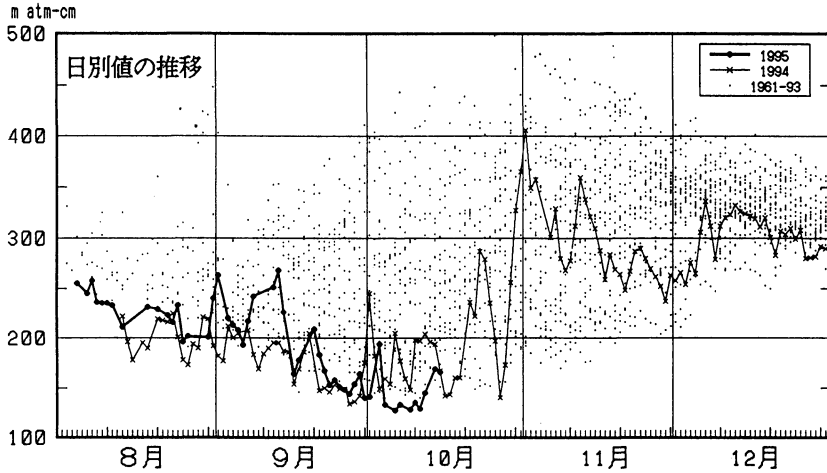
国内4地点(札幌, つくば, 鹿児島, 那覇)及び南極昭和基地における月平均オゾン全量の推移を第1図に示す。1995年1~9月の各地点の状況は、札幌では2~6月が平年に比べて少なく、その他の月は平年並であった。つくばでは1月, 4~5月, 7月, 9月が少なく、その他の月は平年並であった。鹿児島では1月が少なく、その他の月は平年並であった。那覇では1, 4, 5月が少なく、その他の月は平年並であった。また国内では全般に昨年より少ない状況で経過したが、昭和基地では昨年は2月以降オゾン全量の少ない状態であったため今年は結果的に昨年より多くなった。南極のオゾンホールについては、第2図, 第3図に

昭和基地におけるオゾン全量, オゾン分圧の垂直分布を示す。いずれも10月15日までの観測(速報値)による。オゾンホールは今年も昨年に比べてほぼ同程度の大規模なものに発達した。昭和基地のオゾン全量は9月までは昨年よりもやや高い水準であったが、10月上旬には過去の記録の中で最も低い水準で経過した。10月6日は過去最低の127 m atm-cmを記録した。第3図では、高度10~25 kmの成層圏下部でオゾンの消失が見られる。10月10日には高度14~19 km付近でオゾンのほとんど無い層が現れた。

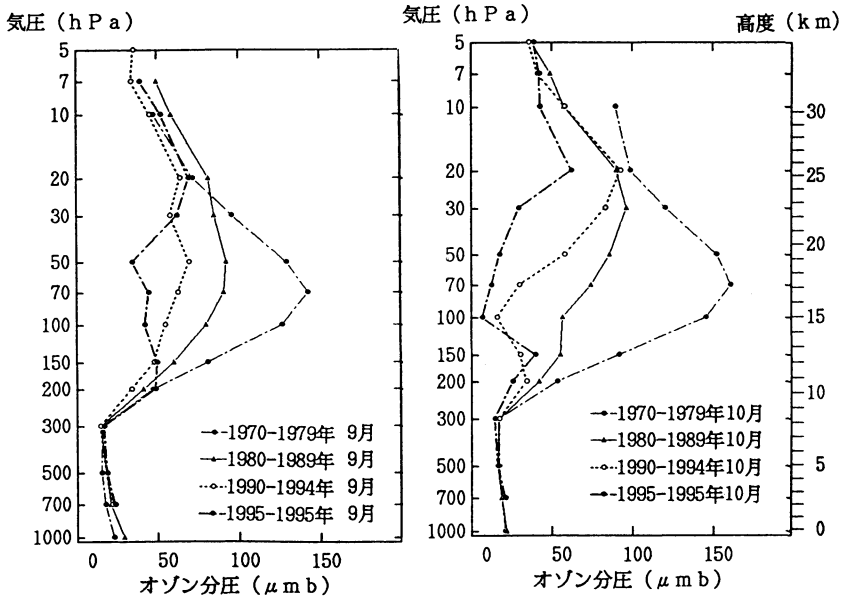
(気象庁観測部高層課オゾン層解析室 林 基生)



第1図 オゾン全量の月平均値と月別累年平均値。国内4地点(札幌, つくば, 鹿児島, 那覇)及び南極昭和基地におけるオゾン全量の月平均値を示す。黒丸印は1995年の月平均値(速報値), 白丸印は1994年の月平均値, 実線は平年値(統計期間: 1961~1990年, ただし那覇は1974~1990年), 縦線はその標準偏差。



第2図 南極昭和基地におけるオゾン全量の変化。小さな点は、1961～1993年までに昭和基地で観測されたオゾン全量を表す。細実線は1994年の観測値、太実線は1995年の観測値（速報値）を表す。



第3図 昭和基地におけるオゾン分圧の垂直分布。オゾンゾンデの観測結果をオゾン分圧の垂直分布図にして示す。左図は1995年9月の月平均値、右図は同年10月の月平均値である。図には、過去10年毎の累年月平均値も参考のために示した。